

日本語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語学概論	日本語の歴史	2	大木 一夫	3	前期 月曜日 5講時	国語学概論
日本語学概論	物語論とことばのバリエーション	2	甲田 直美	4	後期 火曜日 3講時	国語学概論
日本語学概論	方言研究	2	中西 太郎	4	後期 月曜日 5講時	国語学概論
日本語学概論	日本語文法論要理	2	大木 一夫	4	後期 火曜日 2講時	国語学概論
日本語学基礎講読	日本語学の諸問題	2	甲田 直美	3	前期 火曜日 3講時	国語学基礎講読
日本語学基礎講読	古典語講読	2	大木 一夫	4	後期 月曜日 2講時	国語学基礎講読
日本語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	前期 木曜日 2講時	国語学各論
日本語学各論	言語地理学の諸問題	2	大西 拓一郎	集中(5)	前期集中 その他 連講	国語学各論
日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	6	後期 月曜日 2講時	国語学各論
日本語学各論	方言研究の開拓	2	中西 太郎	6	後期 水曜日 2講時	国語学各論
日本語学講読	日本語分析法	2	中西 太郎	5	前期 火曜日 2講時	国語学講読
日本語学講読	言語変化研究	2	大木 一夫	6	後期 木曜日 2講時	国語学講読
日本語学演習	物語論の実際	2	甲田 直美	5	前期 月曜日 3講時	国語学演習
日本語学演習	方言調査法	2	中西 太郎	5	前期 水曜日 2講時	国語学演習

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB31502, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語の歴史

2. Course Title (授業題目) : History of the Japanese language

3. 授業の目的と概要：言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn about the outline of Japanese language history. You will also learn about an overview of how to reveal the history of the language. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

5. 学修の到達目標：(1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。

(2) 言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。

(3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to outline the history of Japanese language,

(2) be able to explain important matters of Japanese language history,

(3) be able to explain how to reveal the history of language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ことばは変化する

第2回：日本語の文字の誕生

第3回：上代特殊仮名遣

第4回：古代日本語の発音をさぐる

第5回：日本語の文章の確立と古代日本語の語彙

第6回：古典文法の世界

第7回：近代日本語の発音へ

第8回：近代日本語文法の性格

第9回：日本語表記改革への道

第10回：日本語語彙の近代化

第11回：新しい書きことばの成立

第12回：言語政策と現代日本語の表記

第13回：日本語史通史補遺

第14回：試験と解説

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

講義時にスマートフォン、タブレット、ノート型コンピュータなどのインターネットに接続できるデバイスを使用する（いずれでもかまわない）。

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB42302, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：物語論とことばのバリエーション
2. Course Title (授業題目)：Narratology and Variation in Japanese Language
3. 授業の目的と概要：言語は、ジャンル、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、広がりを見せる。本講義では物語とことばの関係を扱う。物語で使用されることば、物語と他のジャンルとの違い、語られることばの特徴など、「物語」をキーワードに日本語を分析する事例と分析方法について講義する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces narrative analysis in Japanese language variations. Variety is a specific set of human speech patterns. Viewing language as a realization of language use, the focus of the course is on examining the interrelationship between narratives in sounds, words, grammatical features, and people's language use in everyday life.
5. 学修の到達目標：(1)物語論をとおして我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
(2)会話分析の基本的技能を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To develop student's ability to analyze language in everyday life
To develop student's ability to do Conversation Analysis (CA)
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 言語資料の収集と作成
 2. 言語資料の特性 1
 3. 言語資料の特性 2
 4. 言語資料の特性 3
 5. 物語論
 6. 書き言葉と話し言葉 1
 7. 書き言葉と話し言葉 2
 8. 物語と文化比較
 9. 映像資料と音声資料、そして文字資料
 10. 文法論と談話論の接点 1
 11. 文法論と談話論の接点 2
 12. 話者交替と参与構造
 13. 会話の構造 1
 14. 会話の構造 2
 15. 研究の方法
8. 成績評価方法：
出席 10%、提出物 40%、期末レポート 50%
9. 教科書および参考書：
テキストおよびプリントを用いて解説する。テキストは授業内で指定する。
10. 授業時間外学習：実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：方言研究

2. Course Title (授業題目) : Dialectology

3. 授業の目的と概要： 方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。音韻、アクセント、語彙、文法など基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面、現代社会における方言の位置づけもテーマとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : There are a lot of people who think a dialect isn't made the target of a study only in close existence. But a dialect is placed as one of a research field of study of Japanese language. I disqualify for such problem what kind of way is that it's here or that what happens to a Japanese dialect actually at this session for after all what a dialect is to study that. In addition to basic content such as phonology, accent, vocabulary, and grammar, themes include dialect usage and history, and the significance of dialects in modern society.

5. 学修の到達目標：(1) 方言に対する関心を高め、研究の対象として考えることができる。

(2) 方言学について概括的な知識を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To increase interest in dialects and to be able to consider them as a subject of research.

(2) To acquire a general knowledge of dialectology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：方言の区画、方言の東西差

第 3 回：周権論的分布、逆周権論的分布

第 4 回：いろいろな分布、グロットグラム

第 5 回：発音の地域差、アクセントの地域差

第 6 回：イントネーションの地域差、アスペクトの地域差

第 7 回：条件表現の地域差、方言のオノマトペ

第 8 回：あいさつの地域差、話の進め方の地域差

第 9 回：コミュニケーションの意識の地域差、待遇表現の地域差

第 10 回：共通語化・標準語化、方言と共通語の使い分け

第 11 回：伝統方言の現在、中間方言の発生

第 12 回：新しい方言の発生と広がり、近代化によることばの地域差

第 13 回：方言の社会的な位置づけの変遷、地域資源としての「方言」、言語意識から見た地域類型

第 14 回：ヴァーチャル方言と方言ステレオタイプ、社会現象としての「方言」

第 15 回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

期末試験(70%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)

9. 教科書および参考書：

木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ(2013)『方言学入門』三省堂、ISBN：9784385363936

10. 授業時間外学習：授業の前にテキストの授業範囲に目を通し、疑問点、具体例などを洗い出しておくこと。また、授業終了後には、テキストの内容を復習するとともに、当該授業のトピックについて身の回りの人々の言葉を観察し、体験的・具体的に理解するように努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語文法論要理
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：言語はおよそ文という単位をもち、語という単位をもつ。その文や語のもつ構造やその構成の規則を考えていくのが文法論である。ここでは、その文法論について、文法論はなぜそのように考えるのか、その結果、どのような帰結が導かれるのかということを考えていく。対象とする言語は現代日本語を中心とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A language is composed of sentences and words. Grammatical theory considers the structure of sentences and words and the rules of their composition. In this class, we will discuss the theory of grammar, why the theory of grammar thinks the way it does, and what results are derived from it. The target language is mainly modern Japanese.
5. 学修の到達目標：(1) 文法論の視点、考え方が説明できるようになる。
(2) 日本語の文法事象について説明できるようになる。
(3) 文法論的に考え、その結果について説明できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) To be able to explain the viewpoints and ways of thinking of grammatical theory.
(2) To be able to explain grammatical matters in Japanese.
(3) To be able to think grammatically and explain the results.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 「文法」への問い
第2回 文(1)
第3回 文(2)
第4回 文(3)
第5回 語と形態素
第6回 語とは何か
第7回 文の構造と語彙クラス
第8回 活用
第9回 叙述(1)
第10回 叙述(2)
第11回 テンスとアスペクト
第12回 ムードとモダリティ
第13回 終助詞
第14回 文末音調
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
上記の「到達目標」に即して、いくつかの講義内の小課題、講義参加度で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：
必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時提示する。
【主要参考文献】
庵功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク 2012
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法 改訂版』くろしお出版 1992
ウェイリー, L. J. 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性』1997 (大堀壽夫他訳、岩波書店 2006)
10. 授業時間外学習：前回の講義内容およびそれに関わる事項を確認し、その要点を身につけて次時にのぞむこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：日本語学の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Issues in Japanese Linguistics
3. 授業の目的と概要：日本語学における諸分野について、文献調査や言語観察の方法を概観する。そして検討をとおして、テーマを発見し、考察、レポート作成の練習をする。覚えるのではなく、ことばを分析する体験をとおして、研究の組み立て方の実際を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the methods of literature review and language observation in various fields of Japanese linguistics. Through examination, students will discover themes, discuss them, and practice writing reports. Students will learn how to construct a research project through the experience of analyzing language rather than memorizing it.
5. 学修の到達目標：文献を収集し、系統づけることができる。
言語データの収集と観察ができるようになる。
ことばを観察するテーマを発見できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Be able to collect and systematize literature.
(2) Be able to collect and observe linguistic data.
(3) Be able to discover themes for observing language.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 授業の概要
 - 2 論文の探し方
 - 3 テーマを見つける1
 - 4 テーマを見つける2
 - 5 テーマを見つける3
 - 6 論文の位置づけ1
 - 7 論文の位置づけ2
 - 8 論文の位置づけ3
 - 9 言語データの収集1
 - 10 言語データの収集2
 - 11 言語データの収集3
 - 12 日本語学の問題を解く1
 - 13 日本語学の問題を解く2
 - 14 日本語学の問題を解く3
 - 15 レポートの書き方
8. 成績評価方法：
授業への参加度と提出物による。
9. 教科書および参考書：
論文と資料を授業内で配布する。
10. 授業時間外学習：配布する論文を読んで要点を把握する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB41203, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『源氏物語』。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Tale of Genji". You are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

5. 学修の到達目標：(1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。(2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。(3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

- (1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.
- (2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.
- (3) Be able to report and discuss based on the survey.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『源氏物語』
3. 『源氏物語』を読む(1)
4. 『源氏物語』を読む(2)
5. 『源氏物語』と日本語史的分析(1)
6. 『源氏物語』と日本語史的分析(2)
7. 『源氏物語』と日本語史的分析(3)
8. 『源氏物語』と日本語史的分析(4)
9. 『源氏物語』と日本語史的分析(5)
10. 『源氏物語』と日本語史的分析(6)
11. 『源氏物語』と日本語史的分析(7)
12. 『源氏物語』と日本語史的分析(8)
13. 『源氏物語』と日本語史的分析(9)
14. 『源氏物語』と日本語史的分析(10)
15. 『源氏物語』と日本語史的分析(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：青表紙本源氏物語『常夏』（新典社）、大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。
その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読んで参加する。

日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB54204, 科目ナンバリング：LHM-LIN323J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、叙述類型。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is typology of predication.

5. 学修の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：文法研究とは何か

第3回：先行研究の分析について

第4回：テーマ概説

第5回：研究史の分析(1)

第6回：研究史の分析(2)

第7回：研究史の分析(3)

第8回：研究史の分析(4)

第9回：分析実践(1)

第10回：分析実践(2)

第11回：分析実践(3)

第12回：分析実践(4)

第13回：分析実践(5)

第14回：分析実践(6)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5) 単位数：2

担当教員：大西 拓一郎

コード：LB98808, 科目ナンバリング：LHM-LIN323J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：言語地理学の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues in Geolinguistics

3. 授業の目的と概要：言語地理学の基本を理解した上で、方言分布を生み出す言語変化にはどのようなものがあり、それが地理的条件とどのようにかかわるのかを学ぶとともに、実際に言語地図を作成する実習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose of this lecture is to understand the basics of geolinguistics with studying the relationships between language changes and the dialectal distributions. It is necessary to practice making language maps (dialect maps) for to realize the objectives of this course.

5. 学修の到達目標：言語の本質と言語変化の関係、ならびに言語変化とそれが生み出す方言分布の関係を理解し、方言分布の背景ではどのような人間社会が働いているのかを地図を通して考察する能力を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goals of this lecture are understanding the basic thought on the relationships between the nature of language and language changes. Abilities to analyze how the language changes make dialect distributions behind humanities will be captured through this lecture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語の空間性と方言地図
2. 言語変化と方言
3. 伝播による分布形成
4. 方言地図作成実習(1)
5. 接触による分布形成
6. 言語変化と社会環境
7. 言語変化を支える言語システム
8. 方言地図作成実習(2)
9. 類音牽引
10. 民間語源
11. 同音衝突(1)
12. 方言地図作成実習(3)
13. 同音衝突(2)
14. 混淆
15. 言語地理学の展望

8. 成績評価方法：

レポート 70%、授業参加 30%

9. 教科書および参考書：

大西拓一郎（著）『ことばの地理学』（大修館書店）

10. 授業時間外学習：言語地図作成の実習は授業時間外にも繰り返し行い、基本操作が身につくようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オープンソースの GIS ソフト QGIS を用いて言語地図作成の実習を行います。そのため、PC を持参して授業に参加してください。

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB61203, 科目ナンバリング：LHM-LIN323J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1) 文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2) 会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学修の到達目標：(1) 近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2) 授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声, イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB63203, 科目ナンバリング：LHM-LIN323J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2. Course Title (授業題目)：Pioneering Dialect Studies

3. 授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Conventional dialect research has yet to accumulate enough data that would contribute to the clarification of regional differences in the use of language and to conduct research using such data. There is also room for further development in efforts to return research results to society based on the results of comprehensive research on regional differences in language, including regional differences in language use.

In recent years, theories and research perspectives have been developed to elucidate regional differences in language use, and practical dialectology has also been developed to apply the results of research on regional differences in language use. In this class, the purpose and methodology of such research will be explained, and various issues will be discussed through the description, analysis, and application of regional differences in specific language operations.

This time, we will particularly focus on linguistic behavior, interjections, and discourse, which have not been studied before, and consider their structure, variation, and regional differences in operation, and also examine their historical aspects.

5. 学修の到達目標：(1)講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2)講義でテーマにする研究領域の分析的確にできる

(3)ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Understand and explain the findings and research trends of the research topics covered in this lecture

(2)To be able to analyze accurately the research topics in this lecture

(3)To be able to apply the results of research in dialectology in a practical way

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(80%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB52208, 科目ナンバリング：LHM-LIN334J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：日本語分析法

2. Course Title (授業題目)：Japanese language analysis method

3. 授業の目的と概要：この授業では身近な日本語を材料にして日本語がどのような仕組みで成り立っているのかを分析する。分析の対象は、音声意味、表記、語種、会話、方言、若者言葉、敬語、非母語話者の日本語など、多様な日本語の事象を取り上げる。様々な視点での日本語の分析実践を通して、どのように分析すればよいのかという研究視点と分析手法を身に付ける。

授業では、参加者はグループで問題に取り組み、その問題の分析結果を発表する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： In this class, we will analyze how the Japanese language is structured using familiar Japanese as material. The subjects of analysis will include a wide variety of Japanese phenomena such as phonetic meaning, notation, word types, conversation, dialects, young people's language, honorifics, and the Japanese of non-native speakers. Through the practice of analyzing Japanese from diverse perspectives, participants will acquire research perspectives and analytical methods on how to analyze.

In the class, participants will work on problems in groups and present the results of their analysis of the problems.

5. 学修の到達目標：(1) 研究対象に応じた分析手法を選ぶことができる。

(2) 研究対象に応じた分析視点を説明することができる。

(3) 自己や他者の意見から見出した具体的で適切な事例に基づいて、日本語の特徴を説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To be able to select an analytical method appropriate to the research subject.

(2) To be able to explain the analytical viewpoints appropriate to the research subject.

(3) To be able to explain the characteristics of the Japanese language based on specific and appropriate examples found in one's own and others' opinions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：ことばの意味

第3回：若者ことば

第4回：和語・漢語・外来語

第5回：会話の失敗

第6回：音声と文字

第7回：ことば遊び

第8回：話しことばと書きことば

第9回：あいまい文

第10回：カタカナ

第11回：マンガのことば

第12回：方言

第13回：丁寧体と普通体

第14回：漫才のことば

第15回：外国の人の日本語

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(30%)・授業への参加状況(課題・発表などへの取り組みを含む)(70%)

9. 教科書および参考書：

野田尚史・野田春美(2017)『日本語を分析するレッスン』大修館書店、ISBN:9784469213621

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、当該授業の問題の回答をあらかじめ考えて授業に参加する。

(2) テキストの内容を復習するとともに、当該授業のトピックに関連する身の回りの言葉を観察し、授業で得た知見を検証する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB64208, 科目ナンバリング：LHM-LIN334J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：言語変化研究

2. Course Title (授業題目) : Study of language change

3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学修の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.

(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.

(3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 言語変化研究の現状(1)

3. 言語変化研究の現状(2)

4. 言語変化研究の現状(3)

5. 言語変化研究の問題意識(1)

6. 言語変化研究の問題意識(2)

7. 言語変化についての研究発表(1)

8. 言語変化についての研究発表(2)

9. 言語変化についての研究発表(3)

10. 言語変化についての研究発表(4)

11. 言語変化についての研究発表(5)

12. 言語変化についての研究発表(6)

13. 言語変化についての研究発表(7)

14. 言語変化についての研究発表(8)

15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。

その他、必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB51309, 科目ナンバリング：LHM-LIN335J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：物語論の実際
2. Course Title (授業題目)：Narratology in Practice
3. 授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through exercises, students will experience how the theory of narrative analysis can be applied to the analysis of the language of actual narrative works. Narratives include not only fictional narrative works but also narratives in everyday conversation.
5. 学修の到達目標：物語の理論をもとに物語作品を具体的に分析する。
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。
語りのデータベースを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) be able to analyse narrative works based on narrative theory.
(2) be able to handle narrative data in spoken language from descriptive methods based on conversation analysis.
(3) be able to create a database of narratives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業の概要
 2. 物語の分析理論 1
 3. 物語の分析理論 2
 4. 語りの分析
 5. ナラティブ分析の現在
 6. 物語作品の分析 1
 7. 物語作品の分析 2
 8. 物語作品の分析 3
 9. 会話データの分析 1
 10. 会話データの分析 2
 11. 語りの分析 1
 12. 語りの分析 2
 13. 研究発表の実際 1
 14. 研究発表の実際 2
 15. 研究の公表へ向けて
8. 成績評価方法：
授業参加および提出物による。
9. 教科書および参考書：
プリントを授業内で配布する。
10. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB53207, 科目ナンバリング：LHM-LIN335J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学演習】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目)：Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学修の到達目標：(1)方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2)方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3)方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To be able to plan and examine the contents and methods of a dialect survey

(2) To be able to plan the implementation of a dialect survey and practice dialect research

(3) To be able to report the results of a dialect survey and find the next research topic based on the discussion

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. テーマ等設定に向けての作業 (1)

6. テーマ等設定に向けての作業 (2)

7. 中間報告 (1)

8. 中間報告 (2)

9. 調査票の作り方についての解説

10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法

11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方

12. 現地調査と結果の分析 (1)

13. 現地調査と結果の分析 (2)

14. 最終報告 (1)

15. 最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1)テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2)現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし

オフィスアワー：随時